

修 士 論 文 要 旨

(特 定 課 題)

看護学専攻	生涯看護学 分野 母性看護学 領域	学籍番号	215602
		氏 名	刀根 奈津実
論文題目	ピアグループで出産体験の振り返りをするにより 帝王切開を経験した女性に何が生じているか		
キーワード	帝王切開、産褥入院中、ピア、語り合い、出産体験の振り返り		
<p>【背景】</p> <p>帝王切開を経験した女性は喪失体験や否定的感情を抱きやすく、体験を語ることや共有化をすること、出産体験の振り返りをするなどの精神的支援が必要である。ピアの効果を期待して、産褥入院中に帝王切開の女性同士のピアグループでの出産体験の振り返りが支援方法として導入されているものの、その効果は明らかにされていない。</p> <p>【目的】</p> <p>帝王切開を経験した女性が、産褥入院中にピアグループで出産体験の振り返りをすることによって、何を感じ、何を考えていたのか、明らかにする。</p> <p>【研究方法】</p> <p>研究協力者は、帝王切開で出産した女性9名である。産褥入院中に行われたピアグループによる出産体験の振り返りの場に参加した後、半構成的面接によりデータ収集を行った。逐語録を作成し、ピアグループでの体験に着目して意味内容を整理した。個人で意味内容をコード化、サブカテゴリーを抽出し、類似性と異質性に基づき、グループごとにカテゴリー化し、全体でコアカテゴリーを生成した。データおよび解釈については、母性看護学、質的研究の専門家のスーパーバイズを受けた。なお、本研究は三重県立看護大学研究倫理審査会および研究協力施設の倫理審査会の承認を得て実施した。</p> <p>【結果】</p> <p>コアカテゴリーとして、ピアで語り合う体験から『仲間とのつながりが醸成される』、『帝王切開当事者だからこその感情が生起する』、『仲間との語り心が心を癒していく』が、出産体験の振り返りを通して『触発合いながら出産体験を再構築していく』、『他者の体験と照らし合わせながら自らの出産を肯定的に意味づける』、『帝王切開への社会的認知を求める』が抽出された。</p> <p>【考察】</p> <p>産褥入院中に帝王切開の女性同士というピアで語り合う体験を通して、思いを表出し共感し合えることで、仲間とのつながりが醸成されたり、帝王切開当事者だからこその感情が生起したり、心が癒されたりする体験をしていた。また、帝王切開の女性同士のピアグループでの出産体験の振り返りをしたことで、周りから触発されながら出産体験を捉え直し、出産体験を肯定的に意味づけることへとつながっていた。さらには、仲間からの影響を受けながら出産体験を肯定的に捉えられたことで、帝王切開当事者の立場を客観視し、帝王切開への社会的認知を求めるという認識を得ていた。</p> <p>【結論】</p> <p>帝王切開を経験した女性に、ピアグループで出産体験の振り返りを行う場を提供していく意義は大きく、臨床での積極的導入が求められる。</p>			